

【高等学校用】

令和5年度学校評価結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立神埼高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>各評価項目で概ね目標を達成することができ、落ち着いた教育環境の中で、生徒は学校生活を送ることができている。</li> <li>理解度は目標達成ができていて、生徒の学力伸長との関わりを検証する必要がある。また、生徒が主体的・対話的な深い学びを通じた希望進路実現にむけて、校内研修の充実を図ることで教職員の指導力の向上に努めなければならない。</li> <li>いじめ防止や特別支援教育をはじめとした安心して過ごせる学校づくりのために、SCや外部機関との協力を得ながら、組織的な対応ができており、組織的な対応ができており、次年度も継続していかなければならない。</li> <li>コミュニティスクール推進校として、「総合的な探究の時間」を活用した地域連携と学校の魅力づくりを進めた。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	「至誠・尚学・進取」を基調とし、社会に開かれた学び「KANKO学」をとらして、課題を発見し解決する能力を高めることで、持続可能な社会の担い手となる人材を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>(1) 希望進路に対応し、夢を叶える確かな学力の育成 ①主体的・対話的で深い学びの授業実践と生徒支援 ②少人数授業や習熟度別授業及び選択制授業の実施 ③各学年に応じたキャリア教育の実践</p> <p>(2) 地域社会に進んで貢献できる技能の養成 ①教科と連動した総合的な探究の時間における探究活動の支援 ②協調性と対話力の育成 ③グローバルな視野の育成</p> <p>(3) 学校の魅力づくりの推進 ①カリキュラムマネジメントによる活性化 ②学校情報の積極的な発信</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目	重点取組			最終評価		主な担当者	
	評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)		実施結果
●学力の向上	○教科指導の充実	○生徒による授業評価において「理解できる」「概ね理解できる」と回答する生徒80%以上	○生徒の目標や実態に応じた授業計画の実施 ・授業研究や教職員相互の研修を通し、「指導」から「主体的学びの支援」への移行	・生徒の目標や実態に応じた授業計画の実施 ・授業研究や教職員相互の研修を通し、「指導」から「主体的学びの支援」への移行	B	・授業を理解できていると回答している生徒は90%以上である。理解度や進路に応じた教材の工夫を行っているが、教科担当者に委ねられる部分が大いいため、今後は組織的な動きを模索したい。 ・早朝や放課後などの特別指導へは、生徒の積極的な参加姿勢が見られた。	各学年主任 各教科主任 教務主任 進路指導主事
	○家庭学習の充実	○学年ごとの家庭学習時間目標の達成ができていない生徒80%以上 ○ICT利活用による効果的な学習課題が提供されている」と回答する生徒80%以上	○年間4回の学習時間調査の実施 ・ICT利活用による効果的な学習課題の提供	・年間4回の学習時間調査の実施 ・ICT利活用による効果的な学習課題の提供	B	・家庭学習の時間確保ができていないと回答した生徒は60%程度で、保護者の割合は30%にとどまっている。課題や確認テスト等の学びの支援が、家庭学習時間増加につながるような指導を粘り強く継続する。 ・生徒自身が学習定着度を確認し計画的かつ主体的な学びにつながるよう、さらなる指導や教材等の改善・工夫が必要である。	各学年主任 各教科主任 教務主任 進路指導主事
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身につける教育活動	○生徒会活動に「満足している」と回答する生徒80%以上 ○「問題行動を未然に防ぐ生徒指導が行われている」と回答する教職員80%以上	・生徒主体の生徒会活動の推進 ・地域清掃ボランティア活動の実施 ・問題行動の予防と再発防止の取り組み	・生徒主体の生徒会活動の推進 ・地域清掃ボランティア活動の実施 ・問題行動の予防と再発防止の取り組み	A	・80%以上の生徒が自主的かつ活発な生徒会活動をができていないと回答している。様々な生徒会活動の中に生徒発案の企画が生まれた。総合的な探究の時間を通して徐々に力が育まれていると考える。 ・学校生活の中で時代の変化に適切に応じた考えや行動に取組む生徒主体の動きが見られる。	各学年主任 生徒会主任 進路指導主事 人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「安心して過ごせる学校づくりができていない」と回答する生徒80%以上 ○「いじめ防止について組織的対応ができていない」と回答する教職員80%以上	○いじめの認知・発覚について迅速な対応の徹底 ・いじめの対応に関する研修・会議の年間3回以上実施 ・年4回のいじめアンケートの実施	・いじめの認知・発覚について迅速な対応の徹底 ・いじめの対応に関する研修・会議の年間3回以上実施 ・年4回のいじめアンケートの実施	A	・安心して過ごせる学校づくりができていないと回答した生徒、保護者は90%以上である。早期対応・連携についてさらに強化し、組織として小さな変化を見逃さず安心安全な環境づくりに努める。 ・組織として様々な視点を持つことを強みとする。	管理職 生徒指導主事 教育相談主任
	◎自らの夢や目標に実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎「将来の進路に向かって努力することができていない」と回答する生徒80%以上 ◎「自己有用感、自己肯定感が高まった」と回答する生徒80%以上	◎職業講話、先輩からの講演会の実施 ・総合的な探究の時間、ホームルーム活動の充実	・職業講話、先輩からの講演会の実施 ・総合的な探究の時間、ホームルーム活動の充実	A	・将来への努力、自己有用・肯定感について、「そう思う」と回答する生徒がそれぞれおよそ40%から50%、30%から40%とやや高くなった。学校生活全般で、授業や進路指導、また探究活動を通して生徒の充実度は高まりつつあると考える。 ・自己の将来像が漠然としている生徒があらゆる活動を通して明確に描き出せるようになりつつあるため、自主的行動を促す指導を工夫する。	各学年主任 教務主任 進路指導主事
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	○朝食を摂っていると回答する生徒80%以上 ●生徒の交通事故をゼロにする。 ○交通安全を心がけている」と回答する生徒90%以上	・保健だよりの発行 ・食育に関する講演会などの実施 ・交通安全講話や啓発活動 ・登下校時等のマナー指導の充実	・年度当初と比較し、交通事故件数は減少した。改正道路交通法についても生徒の意識を高め、法令順守について指導を継続していく。 ・ルールを守ることが自身を守り、かつ他者への配慮につながる意識を育むように指導する。 ・「保健だよりに」担任指導の相乗効果により生徒の健康維持・管理ができた。 ・生徒の大半が朝食の重要性を理解できており、生徒、保護者ともに70%以上が朝食をとるよう心がけていると回答している。生徒に加え、保護者・職員へ食育の情報提供を継続する。	B	・年度当初と比較し、交通事故件数は減少した。改正道路交通法についても生徒の意識を高め、法令順守について指導を継続していく。 ・ルールを守ることが自身を守り、かつ他者への配慮につながる意識を育むように指導する。 ・「保健だよりに」担任指導の相乗効果により生徒の健康維持・管理ができた。 ・生徒の大半が朝食の重要性を理解できており、生徒、保護者ともに70%以上が朝食をとるよう心がけていると回答している。生徒に加え、保護者・職員へ食育の情報提供を継続する。	生徒指導主事 各学年主任 保健厚生主任
	○教育相談や特別支援教育の実施	○教育相談体制が整っていると回答する教職員80%以上 ○交通安全を心がけている」と回答する教職員80%以上	○教育相談、特別支援教育に関する研修会の実施 ・専用掲示板を用いた相談窓口・心の健康に関する生徒向け情報の積極的な発信	・教育相談、特別支援教育に関する研修会の実施 ・専用掲示板を用いた相談窓口・心の健康に関する生徒向け情報の積極的な発信	A	・生徒、教職員ともにほぼ100%が相談体制が整い、職員間で連携できていると回答している。 ・生徒情報交換会が大きな役割を担っており、校内での共通理解や協力体制の確立に役立っているため、今後継続する。 ・教育相談は掲示板や配布物に加え、生徒向けに定期的な心の健康に関する講話等細やかな発信ができています。今後は職員や保護者へ講演会等の情報を充実させる。	教育相談担当 特別支援教育コーディネーター 各学年主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・学校閉庁日の設定 ・定時退勤日の設定 ・部活動休業日の設定 ・出退勤システムの活用による時間外勤務管理	・働き方改革が徐々に進んでいる面もあるが、大幅な業務の削減には至っておらず、業務負担の軽減は依然として課題である。 ・昨年度と比較し、繁忙期の時間外在校時間は減少しているが、効率化や分業に向けた取り組みは引き続き検討の必要がある。	B	・働き方改革が徐々に進んでいる面もあるが、大幅な業務の削減には至っておらず、業務負担の軽減は依然として課題である。 ・昨年度と比較し、繁忙期の時間外在校時間は減少しているが、効率化や分業に向けた取り組みは引き続き検討の必要がある。	管理職
	○働きやすい職場環境づくりの推進	○「職員間で連携が図られ、教育活動がスムーズに進められる」と回答する教職員80%以上	・職員間でのコミュニケーションの充実、課題の共有、協働意識の醸成 ・来訪者に対する窓口対応、電話対応の満足度の向上	・職員間でのコミュニケーションの充実、課題の共有、協働意識の醸成 ・来訪者に対する窓口対応、電話対応の満足度の向上	B	・情報共有が難しい業務も多く、限られた職員数の中では、業務の分業が進まず依然として偏りがある。しかし、そのような中でも職員間のコミュニケーションが図られ、連携できている面も多い。 ・職員間の協力的な体制の維持と業務のシームレス化を図ることが重要である。	管理職 各分掌・学年主任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	最終評価		
	重点取組内容	成果指標(数値目標)			実施結果		
○希望進路に対応できる確かな学力の育成	○学力向上を支える各学年の状況に応じたキャリア教育の実践	○年度末に「年度当初に比べて将来に対する目的意識が高まった」と回答する生徒80%以上	・進路講演会、大学ジョイントセミナーの実施 ・オープンキャンパスへの参加 ・進路に関する情報の発信 ・生徒及び保護者面談の実施 ・志望理由書・小論文指導力向上のための職員研修の実施	A	・年度当初と比較して、将来への目的意識の高まりについて「そう思う」と回答する生徒が増加し、60%に近づき、「ややそう思う」を合わせるとおよそ90%に達している。 ・各種講演会、進路ガイダンス、大学訪問や「夢ナビ」講義動画視聴等計画通り実施でき、指導の充実や情報提供に努めた。 ・目的・進路意識が向上したと回答する生徒が増加したが、今後は内容を精査し、キャリアについて自分自身でしっかりと考えられるように、学習探究の時間の充実を図りたい。		進路指導主事 各学年主任
★地域社会に進んで貢献できる技能の養成と学校の魅力づくり	★教科と総合的な探究の時間を連動させた「KANKO学」の推進 ○学校内外での活動への主体的参加支援を通じた、社会での活躍・貢献を希望する生徒の育成 ○学校情報の積極的な発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒80%以上、教職員85%以上 ○年度末に「年度当初と比較し地域の抱える課題やその解決策についてよく考えるようになった」と回答する生徒80%以上 ○「社会を見つめる視点が身についた」「もの見方が深まった」と回答する生徒80%以上 ○「総合的な探究の時間の活動によって、対話力や協調性が高まった」と回答する生徒80%以上	・学校運営協議会との協働によるフィールドワーク、生徒企画の地域探究活動の実施 ・研究成果発表会の開催 ・生徒が多様な役割を担い、活躍できる学校行事の運営 ・年6回程度の「学校だより」発行 ・月2回程度のHPの更新	A	・80%以上の生徒が学校の魅力を理解し、中学生に勧められると回答している。 ・学校広報活動は従来と比較し、様々な方法で取り組むことができた。今後は生徒目線での発信の充実を図りたい。 ・市外から通学する生徒も多いため、生徒が学校のある地元へ愛着を持ち、その魅力を向上させるために、様々な活動を通して地元の人や企業と連携できる機会を増やす。 ・総合的な探究の時間を通して、生徒が進路意識を高められるような学びの場となるように内容の検討を進める。 ・生徒の様々な活動を広げていくよう努める。		管理職 CS企画担当 各分掌・学年主任

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各評価項目ともに概ね目標を達成することができた。生徒は落ち着いた教育環境の中で学校生活を送ることができている。</li> <li>授業の理解度という点で、成果目標は達成したが、更なる学力向上に向けて指導法を工夫する必要がある。生徒の主体的な学びを促し、希望進路に応じた学力が育成できるよう、研修の充実を努めたい。</li> <li>今年度の学校祭等の学校行事では、生徒の主体的な取組や保護者や地域の方々の協力・支援によって新たな活動が生まれた。生徒の満足度も高く、大きな成果であった。</li> <li>いじめ防止や特別支援教育に関しては、SCや外部機関の協力をいただきながら、校内の協働・連携の強化及び組織的な対応ができたと考えている。生徒が安心して過ごせる学校づくりのため、次年度も継続していきたい。</li> <li>教職員の働き方改革の推進については、達成状況が十分とはいえない。保護者等の理解を得ながら、業務軽減、負担軽減のために、更に学校業務全体の効率化を図っていく必要がある。</li> <li>SAGAコラボレーション・スクールとして、学校運営協議会における助言や地域の協力を得ながら「総合的な探究の時間」の活動を行ってきた。生徒の将来に向けての貴重な学びとなるよう、新たな地域連携の場を模索し、活動内容の一層の充実を図り、学校の魅力づくりにつなげていきたい。</li> </ul>
----------------	---